■(仮称)南花台中央公園整備事業基本・実施設計業務　マスター工程表(案)

2023.8.18更新
2023.4.7作成

資料１

▼業務開始　▼8/18　▼11/30 設計図・積算アップ

2023年　2024年

3月　4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月　11月　12月　1月　2月　3月

河内長野市スケジュール

市議会
- 3月議会
- ●庁議4/25
- ●全協
- 6月議会
- 9月議会
- 12月議会
- 3月議会

予算・議案
- ●議決
- ●補正予算（R5国費減額分）
- ●補正予算（工事費）
- ●工事発注議決

ＵＲ跡地購入
- 当初予算上程
- 譲渡額・契約内容協議
- 財産取得議案上程
- 土地売買契約
- 権利移転
- ●河内長野市不動産評価審議会3/30
- ●用地費支払い

都市計画
（用途地域、公園、地区計画他）
※基本計画確定に合わせて整理必要

- 関係機関　下協議
- 府　計画推進課　下協議
- 下協議　回答
- 下協議
- 下協議回答受理
- 素案修正（確定）
- 照会・回答
- 関係機
- 府　計画推進課事前協議
- 事前協議　回答
- 事前協
- 事前協議回答受理
- 16条第1項公聴会及び説明会
- 原案作成
- ★ 計画変更に関する住民説明会4/22
- 協議の回答
- 府　計画推進課　協議
- 19条3項　協議申出
- 協議の回答受理
- 17条　公告・縦覧・意見書の受理
- 都市計画審議会（付議）
- ★ 都市計画審議会(報告)8/9
- ★ 都市計画決定・公示

補助金手続き
（過年度事例想定）

- 製本提出
- 早着申請
- 交付決定
- 第1回計画変更にかかる集中相談
- 概算要望
- 第2回計画変更にかかる集中相談
- 本要望
- 繰越調書作成
- 概算請求
- 実績報告

設計スケジュール

▼基本プラン決定　▼仕様の決定　▼基本概算完了　実施設計図・積算UP▼　▼確認申請提出　業務完了▼
※民間確認審査機関への提出を想定

基本設計・実施設計
- 準備期間
- 基本設計１（約2ヶ月）
- 基本設計２（約2.5ヶ月）
- 実施設計（約7.5か月）
- 基本設計図・設計書作成(2.5ヶ月)
- 調整
- 実施設計図作成(4か月)
- 調整
- 予算把握
- 基本概算1(1か月)
- 基本概算2(1か月)
- 実施積算(2か月)
- 市予算用概算金額提出
- 確認申請図作成(2ヶ月)
- 成果品作成

推進委員会前打合せ日程
- ●3/15
- ●4/7(金)
- ●5/15(月)
- ●6/16(金)
- ●7/11(火)
- ●8/8(火)
- ●9/5(火)
- ●10/10(火)
- ●11/7(金)
- ●12/5(火)
- ●1/9(火)
- ●2/6(火)
- ●3/5(火)
- 施工者選定

推進委員会
- ●3/2
- ●4/13(木)
- ●5/26(金)
- ●6/23(金)
- ●7/21(金)
- ●8/18(金)
- ●9/15(金)
- ●10/20(金)
- ●11/17(金)
- ●12/15(金)
- ●1/19(金)
- ●2/16(金)
- ●3/15(金)

南花台中央公園スタジアム定例会議
（原則毎月第４木曜）
- ●3/30(木)
- ●4/26(水)
- ●6/8(木)
- ●6/29(木)
- ●7/27(木)
- ●8/24(木)
- ●9/28(木)
- ●10/26(木)
- ●11/30(木)
- ●12/21(木)

ワークショップ
- ●WS①7/15
- ●WS②
- ●WS③
- ●WS④
- ●WS⑤
- ●中学生WS①6/30(金)
- ●小・中学生WS②

市民説明会
- ●近隣説明7/29
- ●説明会
- ●説明会＋イベント＋フォーラム

追加業務工程
- a)積算業務：積算業務
- b)申請業務：申請業務
- c)透視図作成：基本設計パース作成／実施設計パース作成
- d)模型作成：模型作成
- e)概略工事工程表作成：概略工事工程作成
- f)土質ボーリング調査：調査／調査結果とりまとめ

設計JV品質管理スケジュール
- キックオフミーティング▲
- ▲計画会議
- ▲DR1
- ▲DR2
- ▲一般図確定会議
- ▲DR3
- ▲整合性確認
- ▲整合性確認
- ▲設計検証
- ▲設計検証
- ▲基本設計リリース承認
- ▲実施設計リリース承認

DR-1
これからどのようにPJを進めていくかの審査プロセス

計画会議
役員によるデザインの方向性を確認するプロセス

DR-2
基本設計内容を審査する

DR-3
実施設計内容を審査する

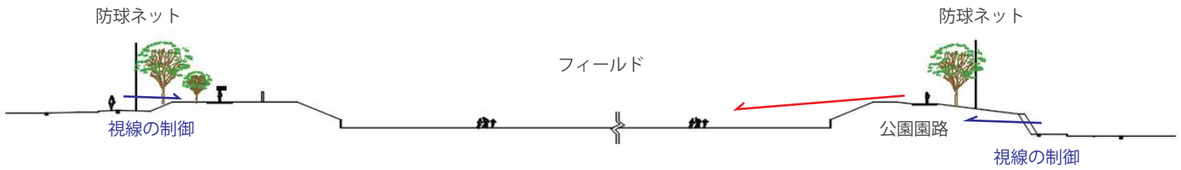
5. 高さ・断面計画

1. 高さ設定基本方針

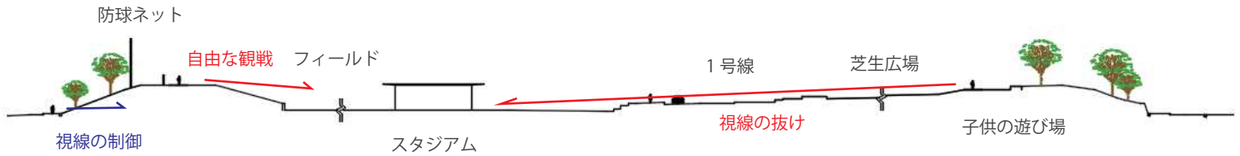
・フィールドからスタジアムピロティ、多目的広場までを同じ高さでつなぐことで、一体的な広場となる高さ設定を行う。

・フィールドから周辺の園路までを 2-3m 内外上げることで、公園外周からフィールド隠すとともに園路からはフィールドへの視認性向上を図る。

・B ゾーンの芝生広場はフィールドから少しずつ上げることで、B ゾーン東側のこどもの遊び場からフィールドまで視線が通る断面計画とする。



断面図 -1

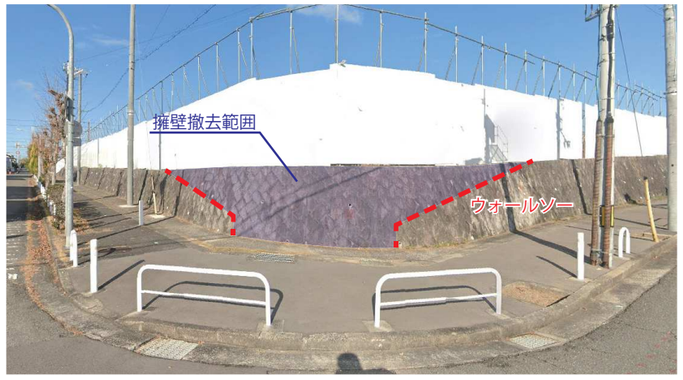


断面図 -2

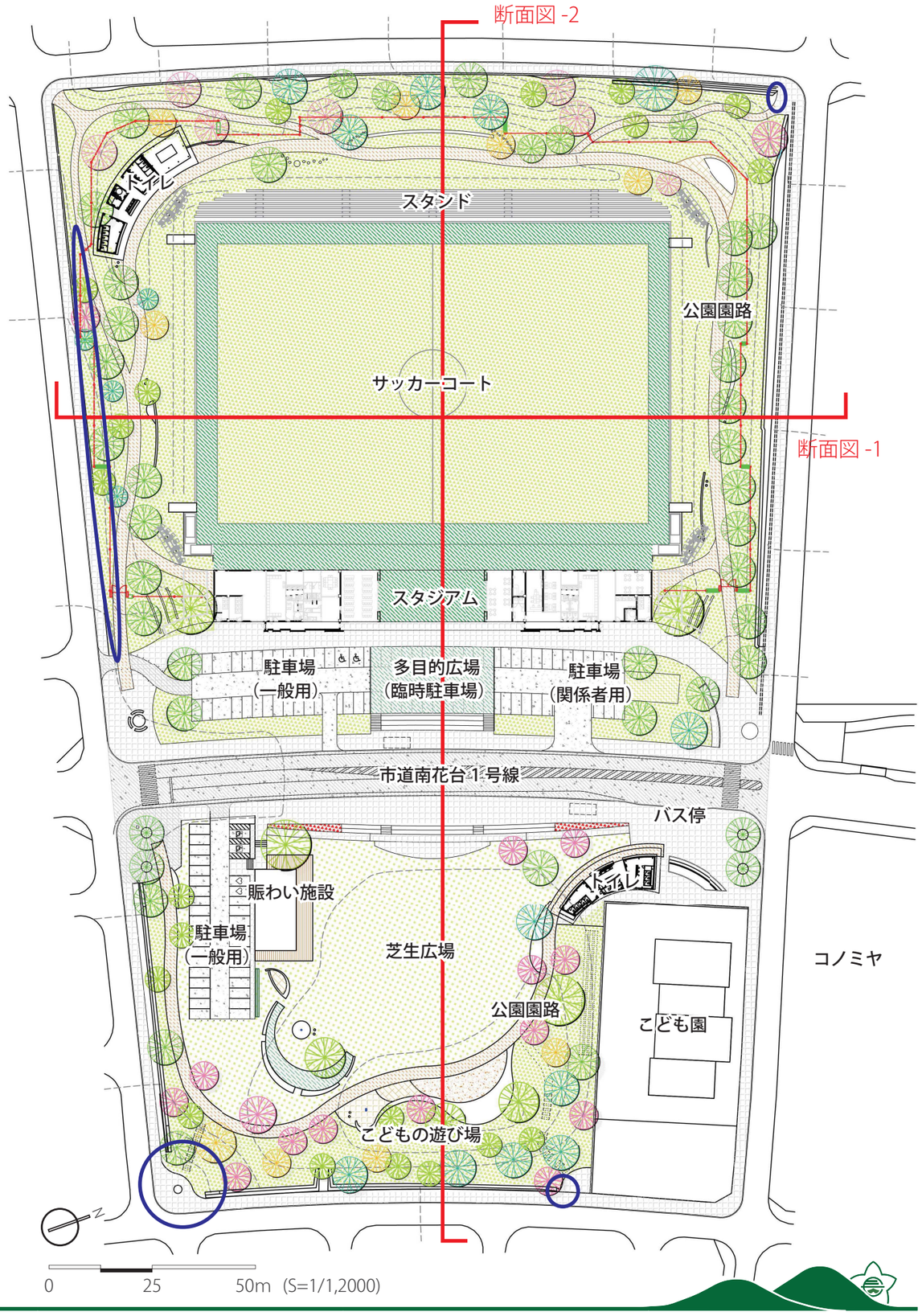
2. 周辺既存擁壁方針

・既存擁壁は、撤去による周辺施設への影響が大きいことへの配慮や、撤去・処分費のコスト削減の観点から、存置を基本とする。

・施設規模が小さく撤去の影響が軽微で済む A ゾーン南面擁壁や、新たなエントランスを整備する B ゾーンの南端等は一部撤去することするが、ウォールソー等周辺地域への影響の最小化を図る。



南東部擁壁撤去イメージ



擁壁撤去範囲

6. 舗装計画

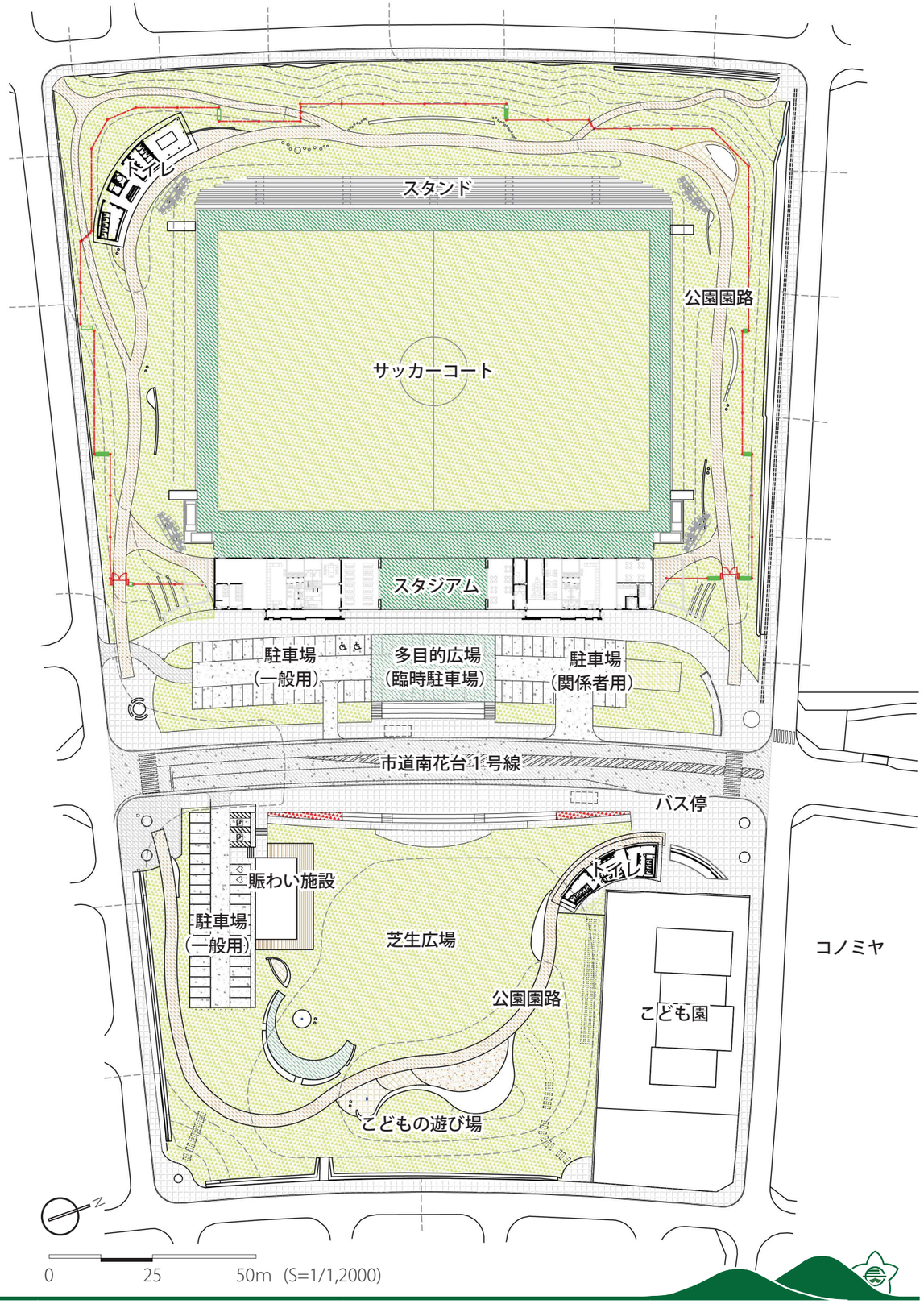
1. 舗装計画

・園路舗装は、自由な地形への追随性を持ち、公園利用や緑に包まれた公園景観との調和を考慮し、現場打舗装の内、土色に近く、夏場に熱くなりづらい「透水性高炉スラグ舗装」を採用する。
・スタジアム前やエントランスの広場舗装、公園外周の園路舗装は、部分補修が容易であり、新たなスタジアム風景に馴染む、インターロッキングブロック舗装を基本とする。
・遊び場や多目的広場の舗装は、人工芝、木質系舗装、土系舗装、ゴムチップ舗装等、裸足で駆け回れる柔らかい素材の舗装を複数設ける。
・車両通行頻度の高い駐車場は、施工性や耐久性の高い密粒アスファルト舗装を基本とし、利用頻度が低く、北側エントランスに近いバス駐車場は緑化ブロック舗装とする。

2. 凡例・イメージ

透水性高炉スラグ舗装	インターロッキング舗装	人工芝舗装
木質系舗装	土系舗装	ゴムチップ舗装
密粒アスファルト舗装	緑化ブロック舗装	芝生（ノシバ系）

※各種舗装材の比較については、「各種技術資料」を参照。
※エッジ材は原則設けないこととし、ブロック舗装については端部をモルタル固定することとする。
※透水性舗装は、フィルター層 t100 を設けることとする。
※舗装、路盤厚は、大型車両対応、管理用車両対応、歩行者用に分け、適切な厚みを設定する。



7. 施設計画

1. 施設全体方針

・インクルーシブな施設として、国籍や年齢、身体的なハンデの有無に関わらず、だれもが自由に公園全体を楽しめる施設計画とする。
・緑豊かな丘に映え、自由な線形での施工が可能なコンクリート素材を基本とする。
・公園全体を楽しむことができるよう、遊び機能や憩い機能が公園全体に点在するような配置計画とする。

2. 遊び機能方針

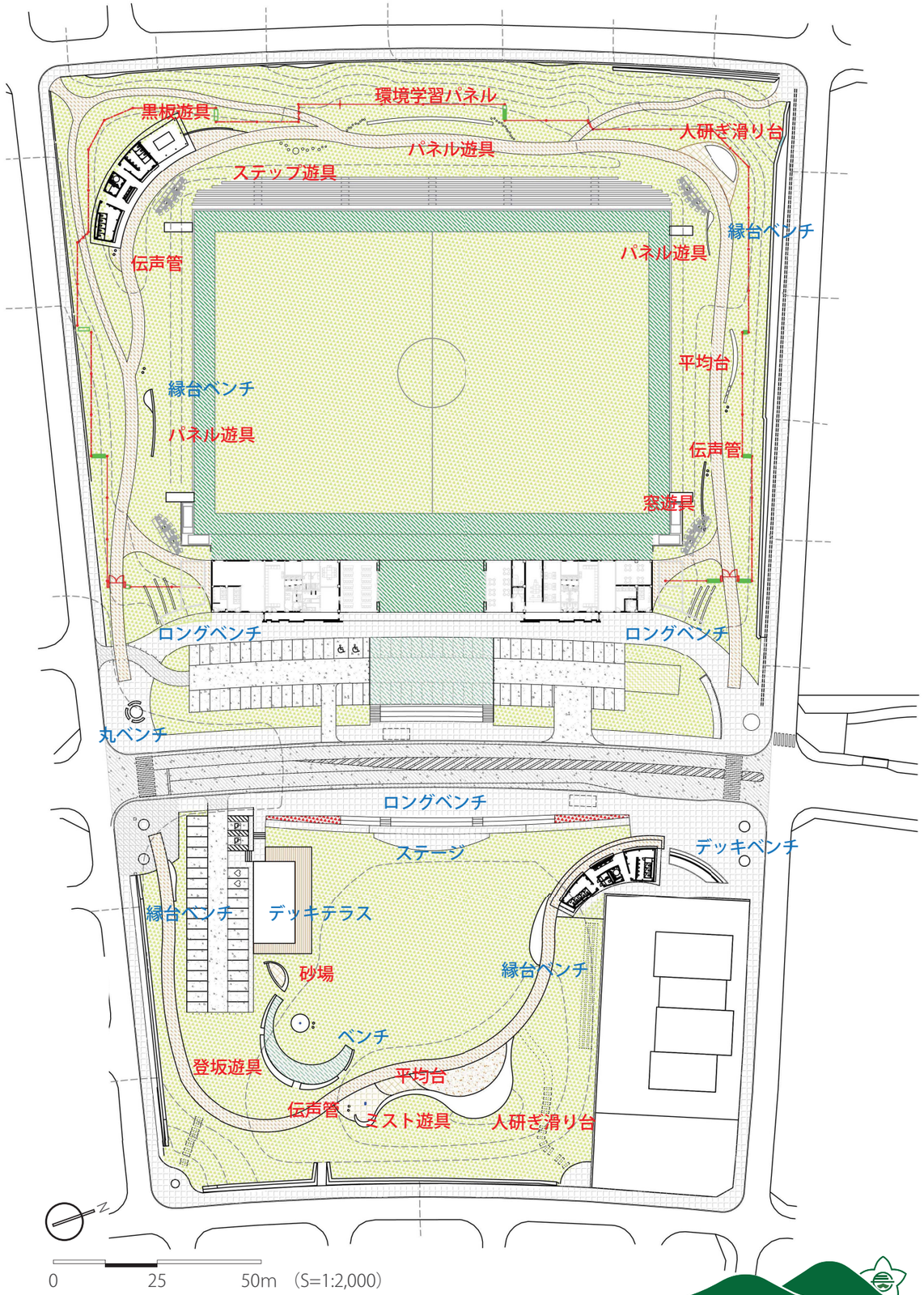
・インクルーシブな施設として、国籍や年齢、身体的なハンデの有無に関わらず、だれもが自由に公園全体を楽しめる施設計画とする。
・緑豊かな丘に映え、自由な線形での施工が可能なコンクリート素材を基本とする。
・公園全体を楽しむことができるよう、遊び機能や憩い機能が公園全体に点在するような配置計画とする。

遊具イメージ

3. 憩い機能方針

・地形のラインを強調し、多くの大人数が同時に憩えるよう、長いライン状のロングベンチを適所に設置する。
・子供から高齢者まで、少人数で憩えるスペースとして、縁台を兼ねたベンチを各所に設置する。
・B ゾーンの遊び場周辺には、足洗い場を兼ねた水飲みを 2 箇所設置する。

憩いの場イメージ



8. 柵・セキュリティ計画

1. 柵類方針

・1 号線の歩車道境界には、歩行者の安全のため横断防止柵 (H800) を設置する。
・H600 以上の転落の危険がある擁壁上等は、景観に溶け込むメッシュフェンス (H1200) を設置する。
・敷地北側の既設横断防止柵は、再塗装とする。
・公園内で歩車の交錯が起きうる箇所には、ボラード型の車止めを設置する。
・色調は、景観に馴染む濃茶色を基本とする。

横断防止柵イメージ

横断防止柵イメージ

転落防止柵イメージ

2. 防球ネット方針

・サッカー用の防球ネットは、スタジアムと公園園路が一体の景観となるよう園路の外側に設置することとし、高さは市及びサッカー競技チームとの協議結果を踏まえ、南北面 H＝8.0m、東西面 H=6.0mとする。
・公園に設置することを踏まえ、景観に配慮した径が小さく色調の自由な鋼管柱とする。
・色調は、柵類と合わせて、景観に馴染む濃茶色とする。

防球ネットイメージ

3. セキュリティ方針

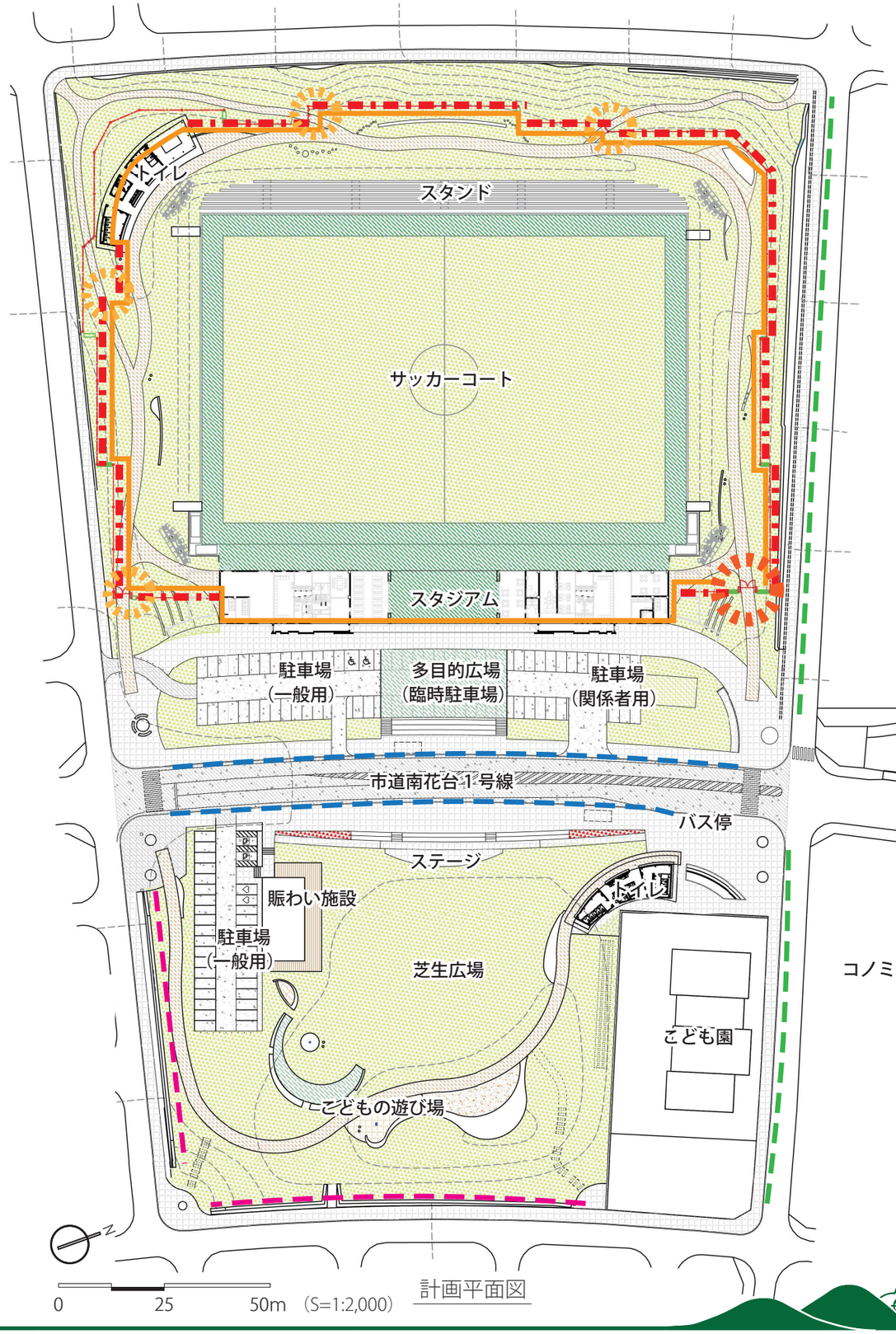
・試合時のセキュリティラインは防球ネット上とする。
・チケットもぎりの位置は、アクセスが多いと考えられる北側の 1 号線沿いエントランスに設ける。

柵・ネット凡例

- 防球ネット
- 横断防止柵
- 転落防止柵
- 既設柵再塗装

セキュリティ凡例

- セキュリティライン
- チケットもぎり位置
- 閉鎖出入口（試合・夜間以外は開放）



計画平面図

9. 植栽計画

1. 植栽方針

・河内長野の豊かな森林に馴染む在来植生を基本に、高木を中心とした植栽計画とする。
・四季を彩り、果実や葉を楽しめる樹種により、一年を通じて五感で楽しめる樹木構成とする。
・敷地内の施設や周辺施設との関係性に考慮し、適切に緑の潤いと木陰を提供する配置とする。
・植栽樹種は、WS 等を踏まえて地域住民の合意形成を図りながら選定を進める。

2. ゾーニングおよび候補樹種

①公園全体を象徴的に演出するカツラ並木

・主要なエントランスである公園北側には、A-B ゾーンを跨ぐ形で樹形の美しいカツラを列植する。

並木イメージ

カツラ（H=8.0m 内外）

②にぎわい広場に木陰を生むシンボルツリー

・にぎわい広場には、緑陰樹として心地よい木陰を生み、市の木として地域に親しまれるクスノキを植栽する。

クスノキ（H=8.0m 内外）

③建築と公園を調和する緑陰樹

・建築周辺には、駐車場の印象を緩和しながら木陰で人の居場所の生む、樹冠の大きな緑陰樹を植栽する。

ケヤキ（H=6.0m 内外）

エノキ（H=6.0m 内外）

フイリヤブラン

④幼児も楽しめるどんぐりの森

・こども園、遊び場と隣接するエリアには、どんぐりや葉や実を楽しめる高木を植栽し、環境学習につなげる。

コナラ（H=4.0m 内外）

クヌギ（H=4.0m 内外）

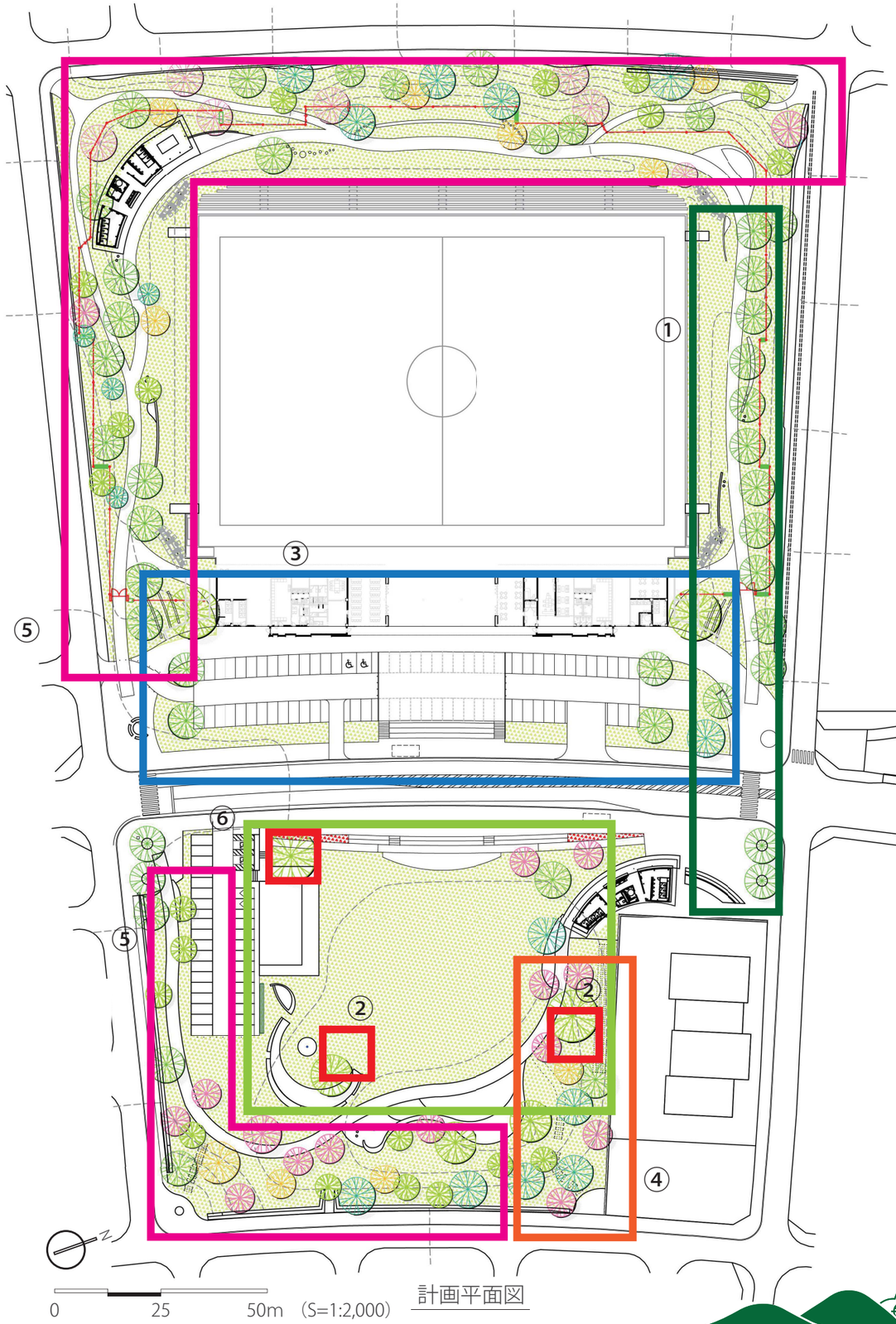
クリ（H=4.0m 内外）

ハウチワカエデ（H=3.0m 内外）

ユリノキ（H=3.0m 内外）

シャシャンボ（H=2.0m 内外）

※樹種・規格に応じて適切に土壌改良、幹巻き支柱の設置を行う。



計画平面図

9. 植栽計画

2. ゾーニングおよび候補樹種

⑤一年を通じて、花色・葉色を楽しめる雑木エリア

・敷地外周部には、一年中様々な葉・花・実の彩りを楽しめる高木を植栽する。敷地内外の見通しを確保しつつ、A ゾーンの西面・南面は、スタジアムから周辺住宅地への音を緩和する密度の植栽とする。常緑・落葉は、周辺への影響を考慮した配置とし、B ゾーン園路沿いには、花見に活かせるサクラを植栽する。

ソヨゴ（H=3.0m 内外）

ヤマザクラ（H=3.0m 内外）

ヤマボウシ（H=3.0m 内外）

ヒメシャラ（H=3.0m 内外）

サルスベリ（H=3.0m 内外）

ハイノキ（H=2.0m 内外）

⑥長い期間美しい緑の続く芝生広場

・芝生広場の芝には、多様な利用を促進し、利用できる時期が長くなるよう、踏圧に強い種のうち、休眠期が短い品種を選定する。

※芝生の選定に関する比較表については、「各種技術資料」を参照。

改良ノシバ（休眠期短縮型）

※公園内の植栽帯には張芝を施すこととするが、特に利用頻度の高い芝生広場を改良ノシバとし、その他の箇所については通常のノシバを採用することとする。

3. 灌水方針

・散水栓からの水撒きを基本とする。
・散水栓は、水撒き半径 25mとし、公園内の植栽帯が全体に散水可能な配置とする。
・サッカーフィールドの散水は、別途「Ⅶ. 機械設備計画」に記載する。
・芝生広場については、回転スプリンクラー式の散水を行うとして、各スプリンクラー設置点にホースが届くようホース長 25m 内として、散水栓を配置する。

回転スプリンクラーイメージ

計画平面図

Ⅳ．スタジアム・付属棟計画

Ⅳ-2.　平面計画・動線計画

2-1.　平面計画・動線計画（非試合日）

■わかりやすい平面計画

・選手更衣室やトイレなどは左右対称な計画とし、わかりやすい平面計画とする。

■フレキシブルな平面計画

・非試合日には公園利用スペースやフリースペース、VIP ラウンジ等を貸会議室として活用できる計画とし、試合日には大会運営に転用できる計画とする。

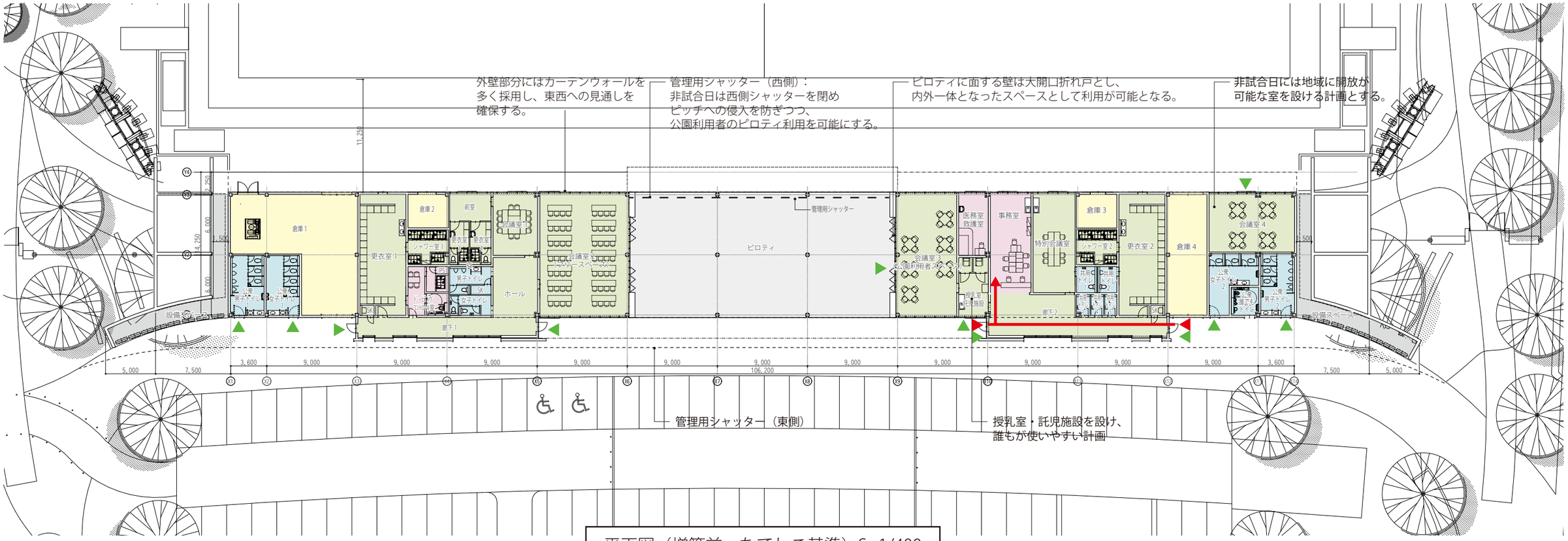
・ピロティに面する南北面の建具は大開口折れ戸とし、公園利用スペースやフリースペースとの一体的な利用を可能とする。

・ピロティの東側､西側にはそれぞれ管理用の横引きシャッターを設ける。非試合日は西側のシャッターのみ閉鎖し、ピッチへの侵入を防止し、公園利用者のピロティ利用を可能にする。

■誰もが使いやすい平面計画

・授乳室･託児施設には外部から直接利用できる出入口を設け、子連れ利用者に配慮した計画とする。

・南端･北端のトイレは公園用の公衆トイレとし、24 時間公園利用者へ開放する計画とする。



平面図（増築前・なでしこ基準）S=1/400
（非試合日）

凡例

：公園利用諸室	：トイレ	：選手出入口	：選手動線
：選手利用諸室	：倉庫	：公園利用者出入口	：関係者動線
：大会運営諸室	：ピロティ	：関係者出入口	：VIP 動線
	：機械室		：公園利用者動線

Ⅳ. スタジアム・付属棟計画

Ⅳ-2. 平面計画・動線計画

2-1. 平面計画・動線計画（試合日）

■セキュリティに配慮した関係者動線

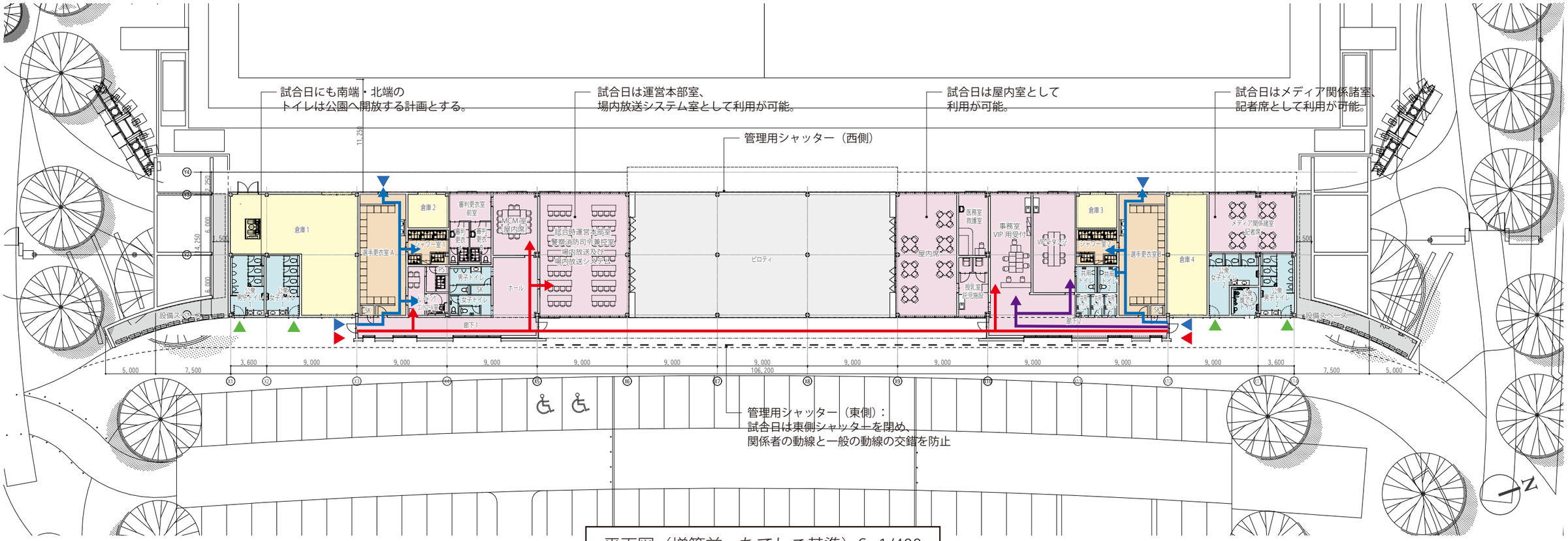
・試合日は東側のシャッターのみ閉鎖し、公園利用者動線と関係者動線の交錯を防ぎつつ、ピロティ東側の庇下をセキュリティに配慮した関係者動線として確保する。

・試合時は、廊下やホールに面したトイレを関係者用トイレとし、南端･北端の公園用公衆トイレは公園利用者へ開放する計画とする。

■ フレキシブルな平面計画

・試合日には会議室を大会運営諸室に転用できる計画とする。

会議室 1　→　MCM 室
会議室 2　→　運営本部室
会議室 3　→　屋内室
会議室 4　→　メディア関係諸室・記者席
特別会議室　→　VIP ラウンジ



平面図（増築前・なでしこ基準）S=1/400
（試合日）

凡例

：公園利用諸室	：トイレ	：選手出入口	：選手動線
：選手利用諸室	：倉庫	：公園利用者出入口	：関係者動線
：大会運営諸室	：ピロティ	：関係者出入口	：VIP 動線
			：公園利用者動線

Ⅳ．スタジアム・付属棟計画

Ⅳ-2.　平面計画・動線計画

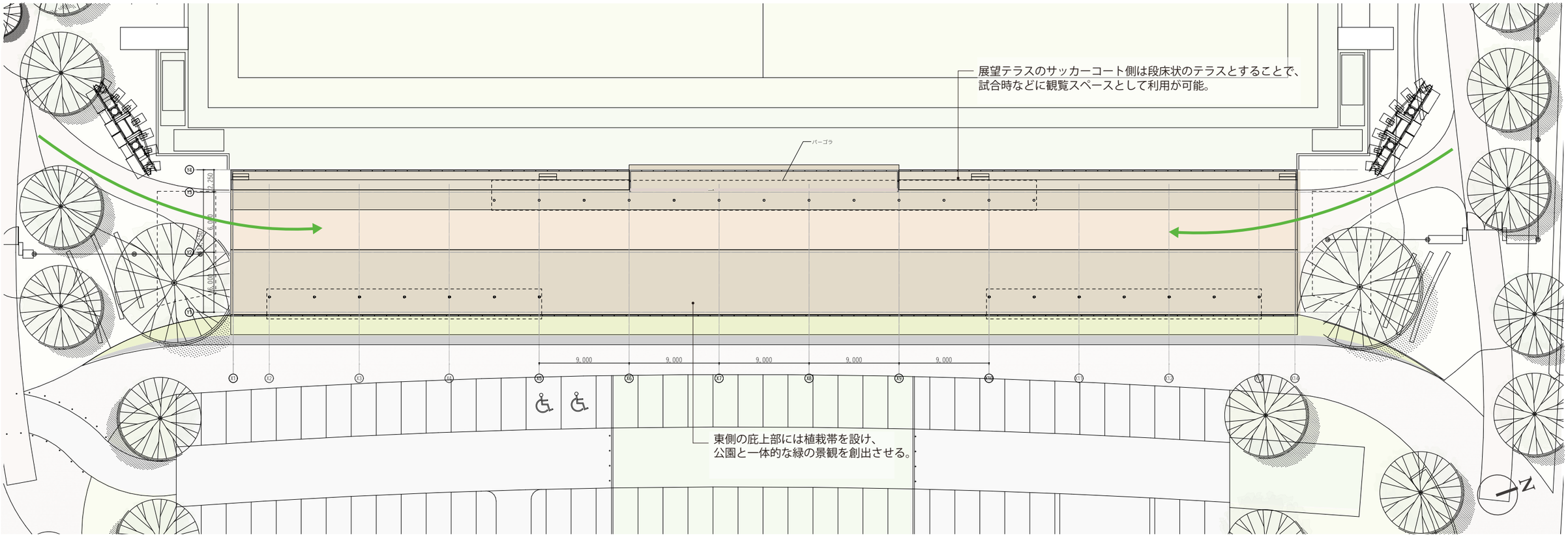
2-1.　平面計画・動線計画

■公園と連続した屋上利用計画

・展望テラスのサッカーコート側は段床状のテラスとすることで、試合時などに観覧スペースとして利用が可能な計画とする。

・屋上テラスには一部日よけルーバーを設け、公園利用者が休憩できるスペースとして計画する。試合時には西側中央部をメディア席や映像配信スペースとして利用できる計画とする。

・東側の庇上部には南北側の法面から連続した植栽帯を設け、公園と一体的な緑の景観を創出する。



屋根伏図 S=1/400

凡例

：公園利用諸室	：トイレ	：選手出入口	：選手動線
：選手利用諸室	：倉庫	：公園利用者出入口	：関係者動線
：大会運営諸室	：ピロティ	：関係者出入口	：VIP 動線
			：公園利用者動線

Ⅳ．スタジアム・付属棟計画

Ⅳ-4.　立面計画

4-1.　デザインコンセプト

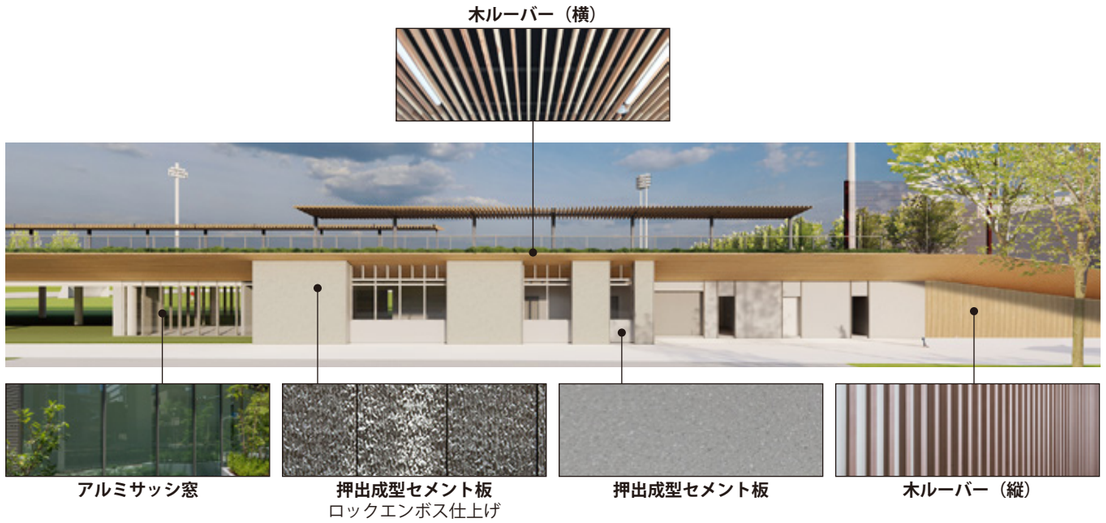
「にぎわいの丘と連続し、南花台の新たなシンボルとなるのびやかな大庇」

■地形とクラブハウスの融合

・クラブハウスの南北側の屋根面を地形と連続した設えとし、また東側には植栽帯を設け緑を連続させることで、丘陵状のシルエットを創出し、景観に配慮した計画とする。

■ランドスケープと調和する象徴的な大庇

・クラブハウス東側立面を地面から連続する一面の大きな庇とし、公園と調和した象徴的なデザインとする。



・大庇は伸びやかな水平性を強調するため、木製の横ルーバーを用いる計画とする。
・壁面は２種類の押出成形セメント板を用い、また前面は公園と調和するようロックエンボス仕上げとする。
・クラブハウス棟端部からピロティに向かって面の大きさがグラデーショナルに大きくなるようなデザインとし、ピロティの抜けの大きさを強調するデザインとする。

東側外観（アイレベル）

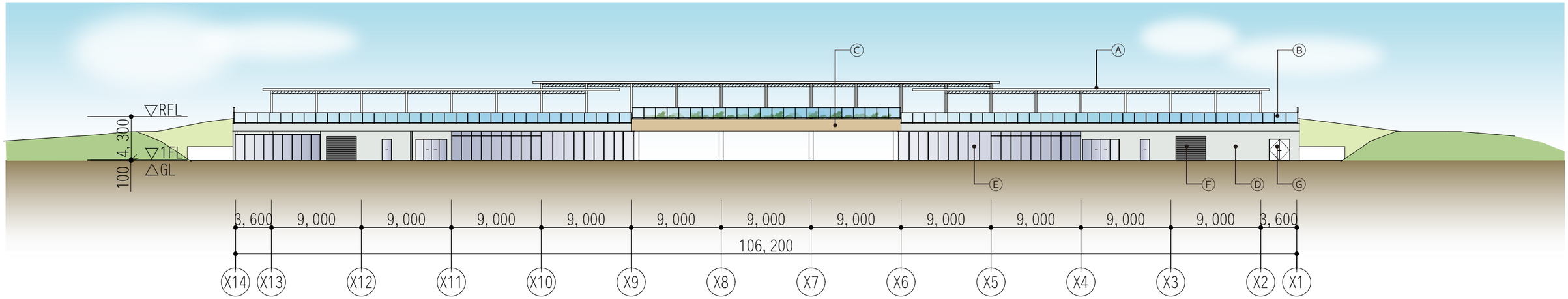
西側外観

東側外観

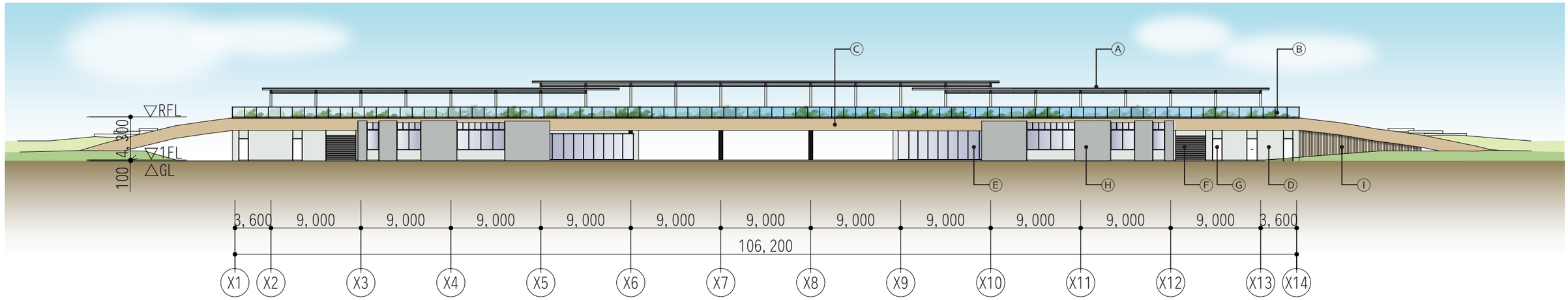
Ⅳ. スタジアム・付属棟計画

Ⅳ-4. 立面計画

4-2. 立面計画



西側立面図 S=1:400



東側立面図 S=1:400

凡例	Ⓐ 木ルーバー	Ⓑ ガラス手すり	Ⓒ 軒天 木ルーバー（横）	Ⓓ 外壁 押出成形セメント板	Ⓔ アルミサッシ	Ⓕ 鋼製シャッター	Ⓖ 鋼製扉	外壁 Ⓗ 押出成形セメント板 （ロックエンボス仕上）	Ⓘ 目隠 木ルーバー（縦）

Ⅳ．スタジアム・付属棟計画

Ⅳ-7．トイレ計画

■ トイレ計画基本方針

・クラブハウス内の関係者用トイレは、各諸室からピロティを介さずアクセスできるように南北に計２箇所配置する。どこからでも利用しやすいよう、廊下やホールに面して配置する。

・北側の関係者用トイレは全て共用トイレとし、一部の個室は選手更衣室や VIP ラウンジから直接出入りできる計画とする。

・クラブハウスの両端には公園用トイレを計画し、公園から 24 時間利用できる。北側の公園用トイレには、オストメイト対応の誰でもトイレを設置し、バリアフリーに配慮した計画とする。

・A、B ゾーンに各１か所ずつ公園用のトイレ棟を計画。休憩所・バス待合所を兼ねた開放的なトイレとし、花びらをモチーフとした曲面形状の大屋根のデザインとする。園路に面してベンチを設置して公園利用者が休憩スペースとして利用できる。

・A、B ゾーンの公園用トイレには、誰でもトイレ、着替えができる子育て支援スペース、授乳室を設け、公園を利用する親子連れや高齢者

■ 衛生器具数算定

・クラブハウス内の関係者用トイレは、選手や関係者用のための最低限の器具数を確保する。

・A、B ゾーン全体の公園用トイレの器具数は、下記①、②より比較し設定する。

①興業場法

35 個＋{(610 ㎡ -600 ㎡)÷30 ㎡} ≒36 個

②公園設計マニュアル

同時滞在者 × 便所利用率

＝1,500 人 ×1/30 ～ 1/70＝21 ～ 50 個

※公園同時滞在者＝日利用者数 × 回転率

＝1,000 人 ×1/2＝500 人

スタジアム同時滞在者＝1,000 人

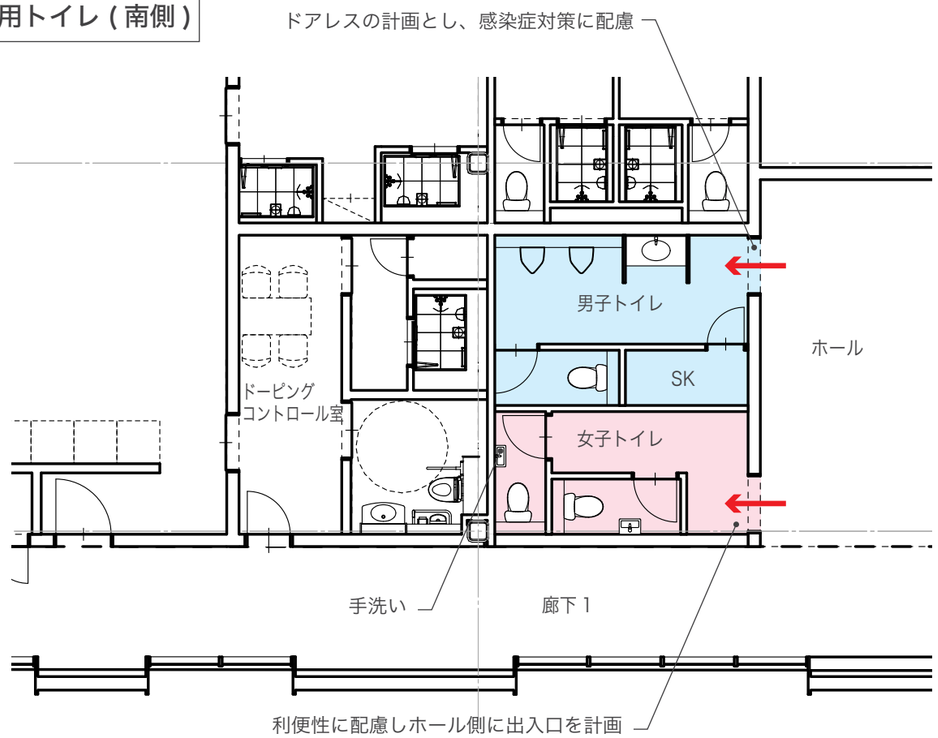
※座席数 1,000 席分で算定

⇒公園用トイレの器具数は合計 50 個確保する。

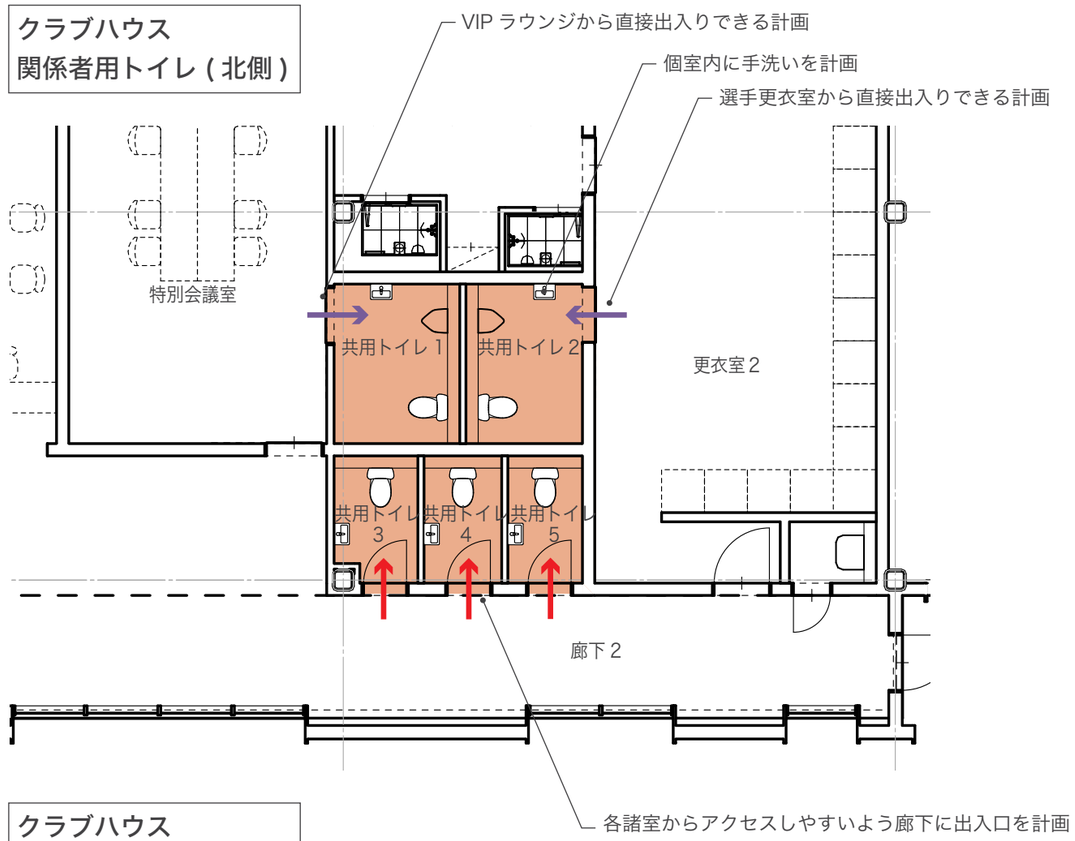
クラブハウストイレ　：22 個
A ゾーントイレ　：14 個
B ゾーントイレ　：14 個　…計 50 個

配置図 S=1:1500

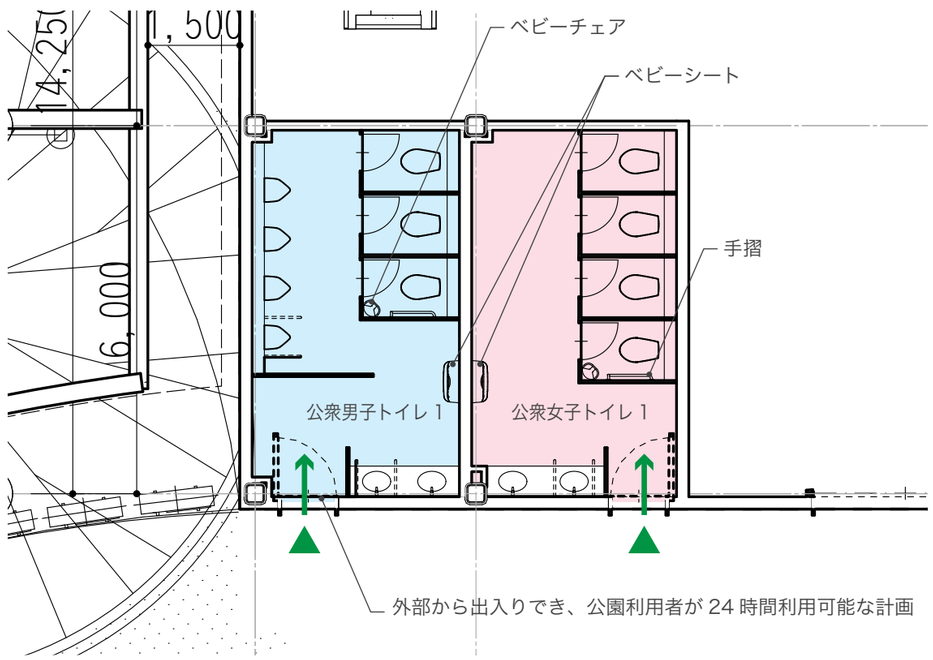
クラブハウス 関係者用トイレ（南側）



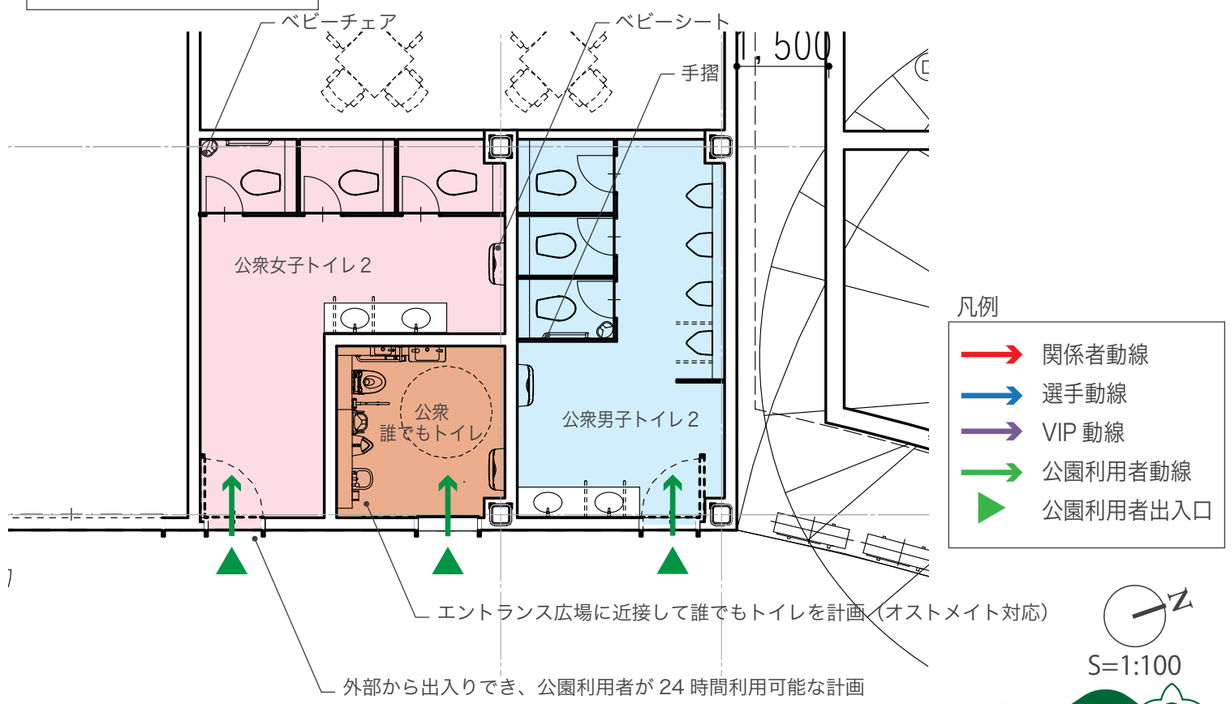
クラブハウス 関係者用トイレ（北側）



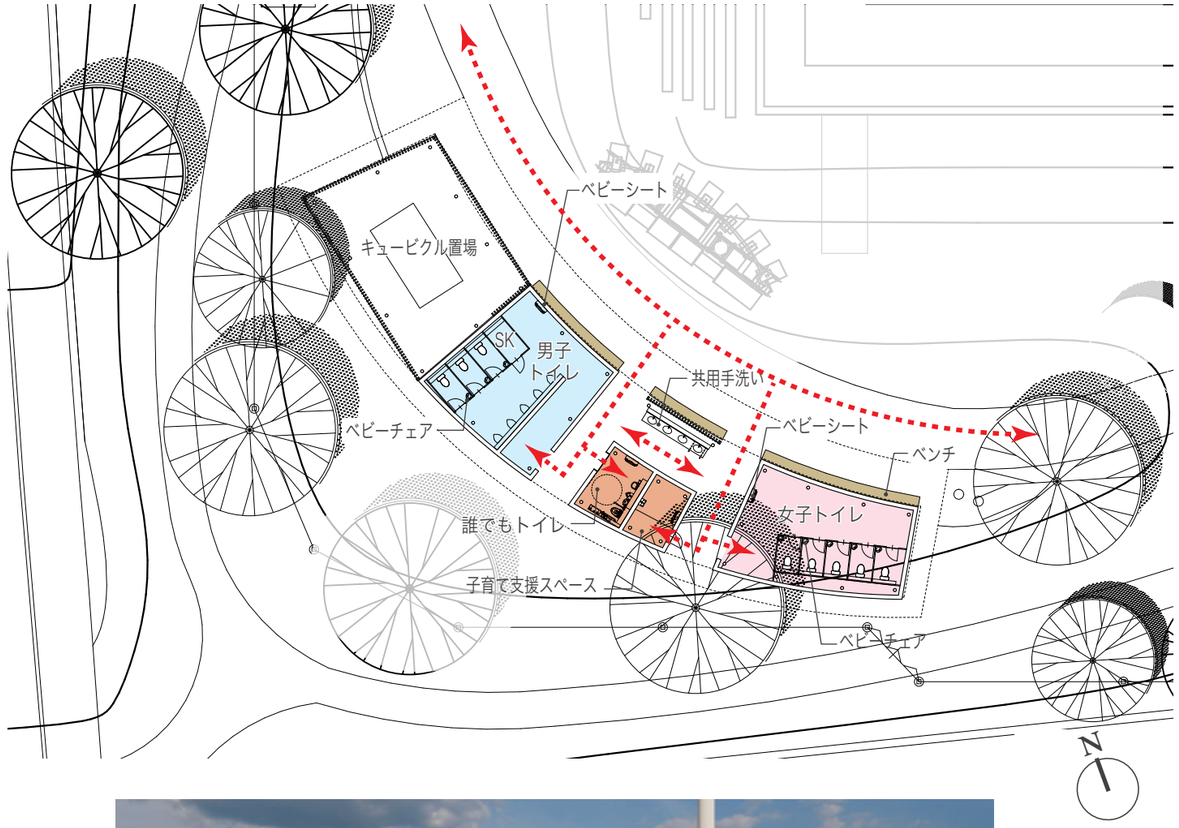
クラブハウス 公園用トイレ（南側）



クラブハウス 公園用トイレ（北側）

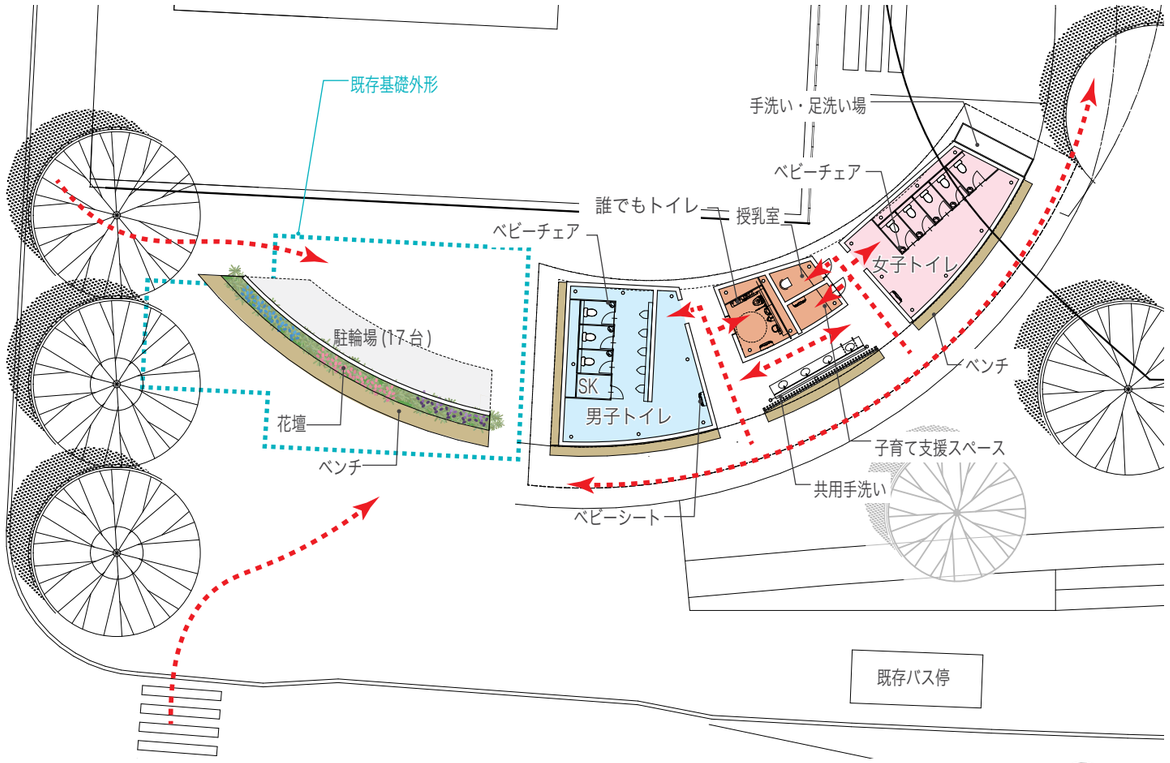


Aゾーントイレ



平面図 S=1:300

Bゾーントイレ



平面図 S=1:300

キーワード

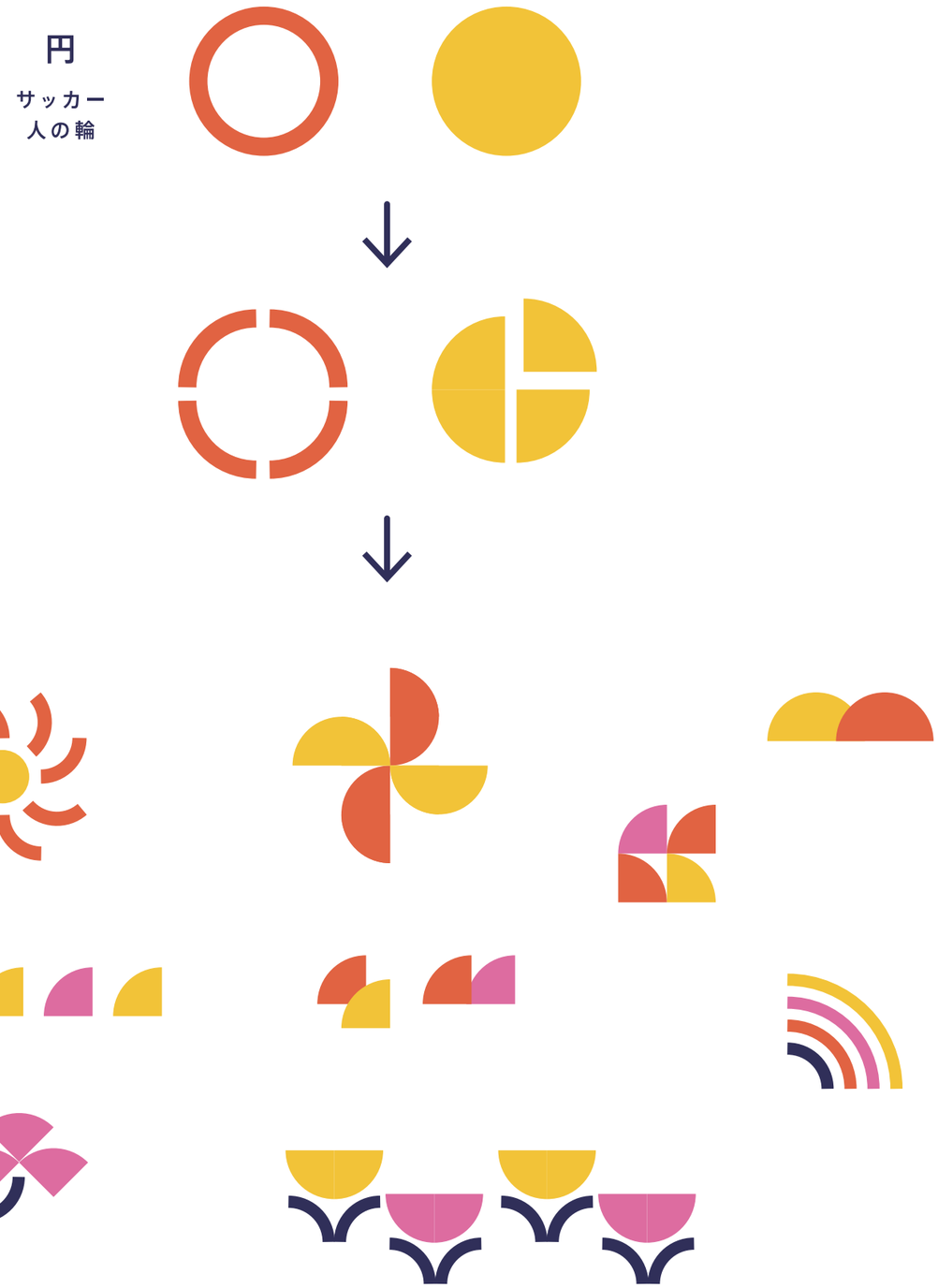
花　丘　風　スポーツ　交流
わくわく　うきうき　憩いの場

テーマ

笑顔が咲く丘

デザインコンセプト

花・自然・躍動感をイメージ
円を分割したパーツでグラフィックを構成
白・紺を基調に
ピンク・オレンジ・イエローをアクセント
書体はサンセリフ



Ⅳ. スタジアム・付属棟計画

Ⅳ-8. サイン計画

書体案

角ゴシック案

● AXIS Std M

あいうえおかきくけこさしすせそ　南花台
アイウエオカキクケコサシスセソ　サッカーコート

● Soleil Book

0123456789 ,.-=+!?&%()
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

角ゴシック案（スリム）

● FOT-UD 角ゴ C80 Pro B

あいうえおかきくけこさしすせそ　南花台
アイウエオカキクケコサシスセソ　サッカーコート

● DIN 2014 Demi

0123456789 ,.-=+!?&%()
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

ピクト案

男性トイレ　女性トイレ　だれでもトイレ　駐車場　駐輪場

北側からの鳥瞰

Ⅴ．構造計画

1．基本方針

・安全性・経済性・施工性及び工期に配慮し、関係法令や諸基準に準拠した構造計画を行う。

2．設計条件

2-1．耐震性能目標

「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準 令和 3 年版」で規定されている耐震安全性の分類に基づき、構造体Ⅲ類・建築非構造部材Ｂ類・建築設備乙類とする。

部位	分類	耐震安全性の目標	重要度係数
構造体	Ⅰ	大地震動後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。	1.5
	Ⅱ	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られている。	1.25
	Ⅲ	**大地震動により構造体の部分的な損傷は生じるが、建築物全体の耐力の低下は著しくないことを目標とし、人命の安全確保が図られている。**	**1.0**
建築非構造部材	A	大地震動後、災害応急対策活動等を円滑に行ううえ、又は危険物の管理のうえで支障となる建築非構造部材の損傷、移動等が発生しないことを目標とし、人命の安全確保と二次災害の防止に加えて十分な機能確保が図られている。	
	B	**大地震動により建築非構造部材の損傷、移動等が発生する場合でも、人命の安全確保と二次災害の防止が図られている。**	
建築設備	甲類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られているとともに、大きな補修をすることなく、必要な設備機能を相当期間継続できる。	
	乙類	**大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られている。**	

2-2．耐風性能目標

「官庁施設の基本的性能基準　令和 2 年版」で規定されている耐風に関する性能に基づき、構造体、建築非構造部材ともにⅡ類(再現期間 100 年相当)と設定する。

分類	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
性能の水準	稀に発生する暴風に比べ、遭遇する可能性が十分低い暴風に対して、人命の安全に加えて機能の確保が図られている。	**稀に発生する暴風に比べ、遭遇する可能性が低い暴風に対して、人命の安全に加えて機能の確保が図られている。**	**稀に発生する暴風に対して、人命の安全に加えて機能の確保が図られている。**
風圧力に対する安全性の確保(構造体)	建築基準法施行令第 87 条に規定される風圧力の 1.3 倍の風圧力に対して、構造耐力上安全である。	**建築基準法施行令第 87 条に規定される風圧力の 1.15 倍の風圧力に対して、構造耐力上安全である。**	**建築基準法施行令第 87 条に規定される風圧力に対して、構造耐力上安全である。**
風圧力に対する安全性の確保(建築非構造部材)	建築基準法施行令第 82 条の 4 に規定される風圧力の 1.3 倍の風圧力に対して、構造耐力上安全である。	**建築基準法施行令第 82 条の 4 に規定される風圧力の 1.15 倍の風圧力に対して、構造耐力上安全である。**	**建築基準法施行令第 82 条の 4 に規定される風圧力に対して、構造耐力上安全である。**

表　「官庁施設の基本的性能基準　令和 2 年版」における分類

2-3．耐久性能目標

構造体の計画供用期間は、「標準（約 65 年）」とし、コンクリートの耐久設計基準強度を 24N/mm^2 以上と設定する。

計画供用期間の級	計画供用期間	耐久設計基準強度
短　期	約 30 年	18N/mm^2
標　準	**約 65 年**	**24N/mm^2**
長　期	約 100 年	30N/mm^2
超長期	約 200 年	36N/mm^2

JASS5（建築工事標準仕様書・同解説 鉄筋コンクリート工事 日本建築学会）による

3．構造計画概要

3-1．構造形式・構造種別

【クラブハウス棟】

・ 平面計画の開放性やフレキシビリティー確保のほか、将来ＷＥリーグ改修も見据えた間仕切り変更や設備計画への柔軟性を考慮して純ラーメン架構とする。

・ 上部構造は軽量かつ強度及び靭性に優れた鉄骨造とし、下部構造は鉄筋コンクリート造とする。

【トイレ棟】

・ 主架構は純ラーメン架構の鉄骨造にて屋根を支持し、鉄筋コンクリート造の間仕切壁で各トイレを計画する。

3-2．荷重条件

積載荷重

建築基準法施行令第 85 条第 1 項による他、建築構造設計基準の資料(令和 3 年版)に定められた用途、実状に合った値を参考する。下表に主要な室の積載荷重表一覧を示す。備考欄にて、令：建築基準法施行令、官：建築構造設計基準及び同資料により設定したことを示す。尚、将来的な WE リーグ規準の計画プランも想定して設定する。

表　設計用積載荷重　（単位Ｎ/㎡）

主な室名	床・小梁用	架構用	地震用	備考
屋上テラス（クラブハウス棟）	3,500	3,200	2,100	令：集会その他相当
屋根（トイレ棟）	980	0	0	官：Ｓ造非歩行 (短期)
ピロティ・フリースペース	3,500	3,200	2,100	令：集会その他相当
事務室・会議室・更衣室・ＷＣ	2,900	1,800	800	令：事務室
倉庫	7,800	6,900	4,900	官：一般倉庫
ＷＣ他（トイレ棟）	1,800	1,300	600	令：居室

Ⅵ. 電気設備計画

Ⅵ-１．基本方針

３つのコンセプト、整備方針を踏まえ電気設備方針・採用設備を決定し、施設機能を確保する。

項目	基本要件	採用設備・方式
施設利用者の安全性確保	・利用者の安全性を確保した設備計画	・利用者の安全性向上のために、多目的トイレにトイレ呼出し設備を設置 ・消防法に準拠した誘導標識を設置 ・消防法に準拠した自動火災報知設備を設置 ・管理事務室での保安及び防災システムによる一元管理
施設の長寿命化	・長寿命機器の採用 ・更新時の機器調達が容易な計画 ・システムの更新に対応した設備計画 ・将来的な更新に対応した設備計画	・点灯時間の長い部分での LED 照明採用 ・キュービクル置場に予備スペースを確保 ・受変電設備に高圧分岐開閉器を用意 ・汎用品機器を採用
省エネルギー・省資源	・最適な力率改善を行い、電気料金の基本料金及び従量料金を削減 ・高効率機器・LED 照明の採用による電力ロスを削減 ・人感センサーを利用した照明制御により消し忘れ照明点灯の回避	・第二次トップランナー変圧器を採用 ・力率改善コンデンサー設備の設置 ・自動力率調整機を採用 ・高効率蛍光灯、LED 照明の採用 ・トイレに人感センサーを採用
環境対策	・敷地周辺への環境に配慮した計画	・敷地外への光害を極力おさえたグラウンド照明 ・敷地境界での音圧レベルを極力おさえたグラウンド音響 ・敷地周辺の景観に調和した外灯計画

コンセプト・整備方針

①南花台に暮らし続ける世代だけでなく、あらたな子育て世代にとっても、暮らしたくなる、暮らし続けたくなる、**生活の質を高め暮らしを支える公園づくり**

②南花台の豊かな住環境をさらに強く感じられる、**まちの価値を格段に高める美しい公園づくり**

③計画から運営までの整備プロセスに、地域の誰もが関わることができ、一緒になって育てていける仕組みを持つ、**愛着を持ち続けられる公園づくり**

Ⅶ. 機械設備計画

Ⅶ-１. 機械設備基本方針

本計画は、「機能性、快適性の確保」、「信頼性・安全性の確保」、「経済性の追求」、「省エネルギー、省資源の追求」、「環境対策」を目指すものとした基本方針を定め計画を行います。

以下に設備計画の基本方針と具体的方策を示します。

項 目	内 容	具 体 的 方 策
機能性・快適性	施設にふさわしい快適な環境を確保するため、部屋の用途や利用時間帯の違いによる、各室の利用形態にあった空調方式の選定を計画します。 また、身体障害者や高齢者、子供など幅広い利用者に配慮した計画とします。	・個室として部屋用途にあわせた運転を想定し、中央熱源による空調ではなく、個別空調を前提とした空冷ヒートポンプパッケージを採用します。 ・身体障害者や高齢者、幼児連れや子供など様々な利用者が使いやすい多目的トイレを計画します。
信頼性・安全性	システムをできるだけシンプルにし、使用する機材は技術的に確立され信頼性の高いものを採用します。	・電気式の空調システムを計画します。 ・故障などに対しても迅速な対応が可能な汎用機器の採用をします。
経済性	イニシャルコストのかからない設備に加え、維持管理しやすくランニングコストを出来るだけ低くおさえたシステムの選定を行います。	・省スペース化や維持管理が容易で汎用性の高い機器を採用します。
省エネルギー・省資源	省エネルギー機器や負荷変動に追従しやすく、エネルギーの有効利用や資源の有効利用が行えるシステムとします。	・こまめな発停が可能なように室ごとに空調リモコンを設置します。 ・水使用量の少ない節水器具を採用します。
環境対策	施設内の人に対する適切な快適環境を創造するとともに、敷地周辺への環境に配慮したシステムを構築します。	・オゾン層破壊係数の少ない冷媒等の採用をします。 ・CO_2発生の少ないシステムの採用をします。